

乳幼児と年長児童の交流事業事例

【神戸市】

- ・地域の様々な機関が連携して実施

【佐賀県唐津市】

- ・保育所と中学校が連携して実施

【山梨県市川三郷町】

- ・乳児検診対象者の協力を得て実施

【京都市】

- ・児童館における継続したプログラム
- ・ふれあい事業を中高生が自主企画

地域の様々な機関が連携して実施 ～神戸市～

(問い合わせ先) 神戸市西区保健福祉部健康福祉課 電話番号：078-929-0024

1. 事業の特徴

小学校5年生の授業の中で、各クラス1回ずつ乳幼児とのふれあいを体験。ふれあいのプログラムは専門的立場から神戸市看護大学が企画し、乳幼児の募集等は民生委員児童委員協議会が行うなど地域の様々な機関の協力による取組。

2. 実施場所

長坂学童保育コーナー（長坂小学校隣接）

3. 実施日（16年度） ※時間は事前学習と交流事業を合わせたもの

	日		時
第1回	6月	3日	9時40分～11時15分
第2回	7月	1日	9時40分～11時15分
第3回	10月	7日	9時40分～11時15分
第4回	10月	26日	9時40分～11時15分
第5回	12月	9日	9時40分～11時15分

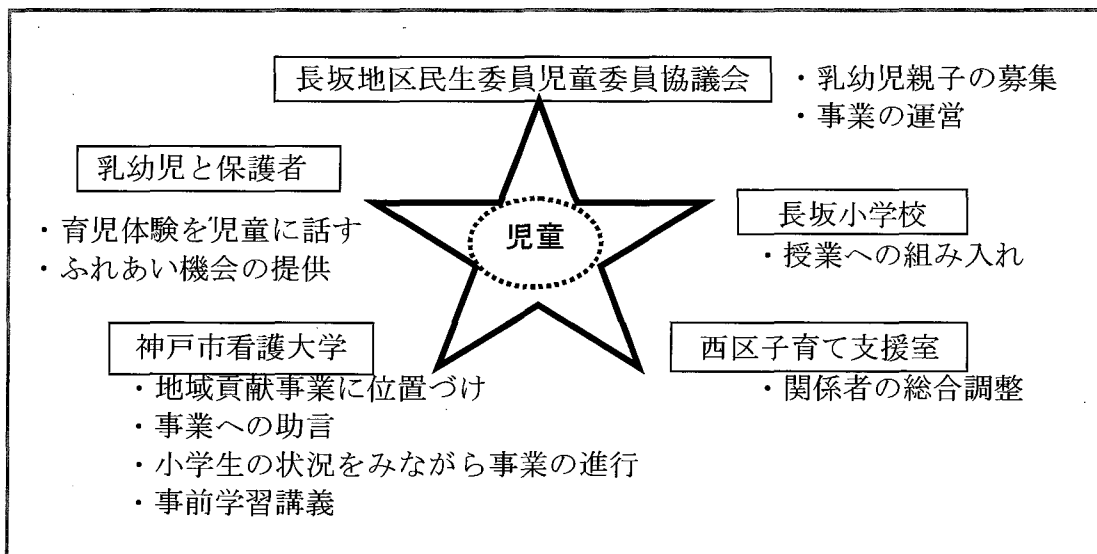
4. 参加者数

- 【参加者】
- ・小学校5年生（5クラス） 185人
 - ・乳幼児（0歳から2歳） 49人（延べ116人）
 - ・乳幼児保護者 47人（延べ104人）

【参加状況】

	小学生	乳幼児	乳幼児の保護者	長坂地区民生委員児童委員協議会
第1回	37人	27人	25人	6人
第2回	37人	27人	23人	6人
第3回	37人	21人	19人	6人
第4回	37人	22人	20人	16人
第5回	37人	19人	17人	7人




5. 各機関の役割



6. 乳幼児の募集

長坂地区民生委員児童委員協議会が開催している子育てサークル「長坂親子の広場」の参加親子に声をかけるとともに、地域の掲示板等にチラシを掲載して、ふれあい事業への協力を依頼。参加申込みは「長坂親子の広場」会場での受け付けた他、西区子育て支援室で電話でも受け付けた。

7. 事業内容

事業の流れ	具体的内容
①事前学習 -交流-	看護大学教員による児童への講義。（「赤ちゃんの1年」、「サルの子育て」、「お年寄りのからだと心を知る」など） ※保護者に対しても、別途、看護大学教員からの子育て等のワンポイントアドバイスを実施（「小児科受診のポイント」、「赤ちゃんマッサージ」など）
②乳幼児保護者の話	グループごとに、保護者の妊娠・出産・子育ての体験談、子どもへの思いを聞く。 児童からも子育て等に関する質問がされ、保護者がそれに答える。 
③児童と乳幼児のふれあい	最初は乳幼児との握手から始め、その後、実際に乳幼児を抱っこしたり、児童が自ら創意工夫して、その場にあるおもちゃや、絵本を使って乳幼児をあやしたりする。交流時間は乳幼児の疲れを考慮して30分程度。  
-事後- ④感想文	乳幼児とその親に対する手紙形式の感想文を作成。後日、親の元に届けられた。

8. 事故防止・安全対策

児童を5人程度のグループに分け、各グループには看護大学の教員を少なくとも1名配置し、民児協メンバーも適宜参加して事故防止に配慮。

児童の事前の手洗いを徹底し、机、いす等は全て片付けて、床にキルティングマットを敷き、抱っこするようにした。しかし、児童は特に注意されなくても、乳幼児を丁寧に扱い、危険な様子は見受けられなかった。

9. 事業の効果

【小学生にとって】

- ・児童は、乳幼児とふれあい、乳幼児の保護者から出産や子育てに関する話を聞くことで、命というものを実感していた。
- ・事業をきっかけとして、家庭で自分自身が生まれ育った話を保護者から聞き、自分が愛され慈しまれて成長してきた過程を知ったようであった。
- ・また、目の前にある命だけでなく、将来自分が親になることを想像できたようであった。
- ・教師の視点からは、命の感動体験後、子ども同士のトラブルが少なくなる、下級生への対応など、児童の思いやりの心が目に見えて実感された。

【乳幼児の保護者にとって】

- ・事業に参加することで、次世代育成を支援するという社会参加、社会貢献を行っているといえ、保護者自身の子育てに対する評価を高めることにもつながっている。

【地域にとって】

- ・生活圏を同じくしている児童、乳幼児親子、民生委員児童委員の三者が命の感動体験事業で出会ったことによって、事業実施日以降も生活の中で関係を深めることが始まっている。児童が知り合った乳幼児親子と学校外で遊んだり、保護者が児童を身近に感じるようになったりしたということが報告されている。